

女性議会 一般質問通告書

氏名 野田 順子

テーマ	教育から西尾の未来を変える明確なビジョン
現状や課題 意見・提案事項	<p>2014年、10年ぶりに4人目を出産したことで、今の学校教育や、それを取り巻く様々な地域の課題に対し、自分にできることをしていこうと、3年前から「街のみんなの学校プロジェクト」として上映会や講演会はじめ、様々なワークショップを市内外で企画主催している一色町の野田順子と申します。</p> <p>ドキュメンタリー映画「みんなの学校」西尾上映会から始まった活動で、常にテーマにしてきたのは「子どもたちが大人になった時に、自分らしく生きられる力を育むには、今大人は、学校は、地域はどうあったらいいのか？」というテーマです。</p> <p>今、いろいろなところで教育や学校には根深い課題があると騒がれており、日本の教育は、危機的状況だと感じている人も少なくはないはずです。しかし、本当にそうなのでしょうか？</p> <p>実際に現場の先生や教育行政に携わっている一人ひとは、お話しすると人間として素晴らしい先生も魅力的な人もたくさんいますし、何より人として語り合える人はたくさんいます。しかし、組織となった途端、様子は変わってしまいます。歯切れが悪くなり、前例がないことへの挑戦を恐れ、責任を取らなくてもいいような態度が表れ、結局、決断も判断もなかなかできない。今、全てがものすごい勢いで変化する時代に合わせて、制度を根こそぎ変えなくても、少し工夫してやり方を変えたり、見直しをして行くだけで良いものにできそうなのに、その決断と実行ができない。</p> <p>その結果、過去の産物である制度の範囲内でしかない現状が、課題とともにしぶとく生き残り、その中で大切な西尾の未来を担う子どもたちが、そんな状況であることも気づかずに、未来を過去に制限されたまま育てられている。力を伸ばすどころか、子どもたちの力を削ぐように育てられている現状。</p> <p>さあ、西尾だけでなく日本中に蔓延するこの状況を、真に子どもたちの未来のために変え始めていくためには、何が必要なのでしょうか？</p> <p>私は、ビジョンがないことが一番の問題だと思っています。ここで言うビジョンとは、なんだか昔から伝えられてる額に入った</p>

	<p>校訓や社訓のような死んだビジョン風のものではありません。大人から子どもまで、誰でも聞けば「それが欲しかった！そのとおり！」と思わず納得するもの。何より、教育なら教育の、市政や組織ならその街や組織がどこへ向かっていくのかを一言で感じられ、力が湧いてくる、そんな本当のビジョンです。</p> <p>西尾市の学校や地域がどうあったら、自分に自信を持って自分の才能を生かして、将来社会で活躍していける子どもたちを育てていけるのか。10年後、20年後、50年後という未来へ向けての明確なビジョンが、残念ながら西尾市にはありません。西尾の教育現場にもありません。</p> <p>ビジョンが無いということは、カーナビで目的地が設定されていないのに、ただ日々過去の繰り返しでさまようだけ。そこには未来はありません。今、時代の最先端と称され、活気に溢れ果敢に新しいことにチャレンジし、活躍が聞こえてくる自治体、教育委員会、学校、組織には、必ずビジョンがあります。ビジョンの有る、無しは、今の時代、個人の生き方から学校、企業、組織、国レベルに至るまで、死活問題です。</p> <p>今回、西尾市としては画期的な初の女性議会の開催に当たり、まず、最初にこの街の未来への大黒柱となりえる部分について質問と提案をさせていただきます。</p>
<p>質問</p>	<p>1. まずは、西尾市全体として、これからの西尾市のために、どんなビジョンがありますか？もし、無いということならば、ビジョンを作る予定はありますか？</p> <p>【提案】ビジョン策定について…しっかりと市民を巻き込んで作るために市民対話の機会を開催して「西尾未来ビジョン」を作りませんか？</p> <p>2. 西尾市の学校全体で共有する教育委員会としての西尾市の教育ビジョンはありますか？もし、無いということならば、ビジョンを作る予定はありますか？</p> <p>【提案】上記と同じく、たくさんの教員、保護者、子どもたちの意見を取り入れながら、西尾で育ったことを、子どもたち全員が誇れるような教育環境を作るためのビジョン策定を、ぜひしていきませんか？</p> <p>その際に行政でよくある死んだ会議ではなく、ワールドカフェなどのファシリテーション技法を活用して、誰でも参加でき、意見を言って関わっていける機会の設定をして、西尾らしい未来への教育ビジョンを作りませんか？</p>

女性議会 一般質問通告書

氏名 石川 せつ子

テーマ	子育てしやすい、市民ファーストなまちづくり
<p>現状や課題</p> <p>意見・提案事項</p>	<p>子どもたちは、西尾市の将来を担う大切な人材です。「西尾市に住めば、安心して出産し子育てもしやすい！」と若い世代に認知されれば、若者の定住するまちづくり、賑わいを創出するまちづくりにつながると思います。</p> <p>現在は、共働きの家庭が多く、「保育園に子供を通わせたい」と思っている親はたくさんいます。しかし、待機児童としてはカウントされませんが、定員数の関係から、第1希望の保育園には通わせることができない家庭もあると聞いたことがあります。このような、待機児童問題等を解決するために、平成18年10月に「認定こども園」制度が施行されました。</p> <p>認定こども園は、保育と幼児教育が合わさっている施設で、地域の実情や保護者のニーズに応じて選択が可能となるよう多様なタイプがあります。保育園、幼稚園、それぞれにメリット、デメリットはありますが、認定こども園の普及促進は、各家庭のライフスタイルに寄り添う子育て支援策のひとつではないかと考えています。</p> <p>また、待機児童問題の原因のひとつには、保育士不足問題があります。保育労働に対する賃金の問題、長時間労働や休暇が取りにくい等、就労環境の見直しもひとつではありますが、能力開発の取組み又はキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とした厚生労働省所管の教育訓練給付制度のような、保育士や幼稚園教諭の資格取得のために「給付型の教育資金制度」の創設も子育て支援策ではないかと思えます。</p> <p>女性が、結婚や出産を機に一度離職した後、再就職するには、まだまだ課題があります。女性の働き方に対して、柔軟性が高く、そして地域の子育て支援の環境が整っている事が、「子育てしやすい、市民ファーストなまちづくり」ではないかと思えます。</p> <p>そこで、質問します。</p>

質問

1. 現在、岡崎市や安城市には、認定こども園がありますが、西尾市においても、認定こども園の普及促進を視野に入れ、就学前の教育・保育に関する保護者のニーズ調査を実施する予定はありますか。また、保育士不足問題について、全国的な問題ではありますが、本市においては何が原因であると思いますか。また資格取得のための補助制度については、どのような考えをお持ちですか。

2. 子どもの急な発熱やケガは、働くお母さんにとって、度々乗り越えなくてはならない出来事です。病児、病後児保育についてお聞きします。現在、中野郷保育園とエルザの家が実施施設となっていますが、昨年度の利用状況を教えてください。また、この制度を知らない方が見えましたので、市民へのPRはどのように行っていますか。

3. 保育園への入園について、仕事が決まっていないと入園できないと聞きました。例えば、母子家庭となって間もない場合、就職活動するために子どもを預けたいと思う母親は多いと思います。現在、一時保育制度はありますが、就職活動は、一定の期間が必要だと思います。このような場合、就職活動中の3か月を目安に一時的に入園し、期間中に仕事が決まらなければ退園していただくなど、市民ニーズにあった対応を取り入れる考えはありますか。

女性議会 一般質問通告書

氏名 倉内 千晴

テーマ	<p>(1) 地域と障害者の共生について</p> <p>(2) ワーク・ライフ・バランスの推進について</p>
<p>現状や課題</p> <p>意見・提案事項</p>	<p>私は、西尾市一色町を拠点に、18年間市民活動団体子育て支援にここの代表として子育てサークルの運営活動をしています。子育てサークルでは、主に0歳～3歳の未就園児および親子同士を繋ぎ、孤独な子育てによる虐待防止を図っています。これまで子育てサークルには、障害を持つ子どもや不登園になった子もいました。その他、卒会后、友人とのトラブルに苦しむ親子のサポートもしてきました。子育てサークルの最初の卒会生は、今では21歳となり、就労している子や結婚している子もいます。</p> <p>障害を持つ子どもたちが、地域の一員として社会にとけ込み、生活していくためには、行政や地域のサポートが大切です。まだまだ未熟な子どもたちが、これから成長し、そしていつか結婚し、未来へ向かい歩んで行くためには、彼らが、住みやすく、働きやすい環境づくりが不可欠だと思います。</p> <p>愛知県は、知的障害部門と肢体不自由部門を共に備えた特別支援学校を西尾市須脇町に開校します。支援を受ける子どもたちが、卒業後、安心して生活していくためには、特別支援学校からの道筋をつくり、それを地域でサポートしていくことが大切です。卒業した彼らが、特技や個性を生かした仕事に就き、家庭を持ち、子育てをする、そんな幸せな天寿を全うできるようサポートしていくことが本当の支援ではないかと思うのです。</p> <p>一方で、若い世代の人たちにも支援の手が必要だと思います。今は、「夫は仕事・妻は家庭」という固定的な性別役割分担意識の時代ではありません。家族形態や生活のあり方も多様化し、共働き世帯が主流となっています。彼らは、子育てと仕事を夫婦で両立させ、地域での役割も担っています。そのため、仕事と生活の調和のための雇用環境の整備はとても重要です。</p> <p>私は、子育て支援にここの卒会生、ひいては西尾市の未来を支える子どもたちが、この西尾市で「生まれて育ってよかった」、母親になった子どもたちが「産んで育ててよかった」と思っているのです。</p> <p>そこで、質問します。</p>

質問

1. 地域と障害者との共生は、障害者への理解を深めるため、支援関係機関からアドバイスをいただくことも必要です。特別支援学校が開校されることから、障害者の地域生活を支える取組を促進するために、学校敷地内に日本福祉大学大学院のサテライトキャンパスを誘致してはどうでしょうか。

2. 特別支援学校が開校するにあたり、障害者の皆さんの能力の開発と向上を目指し、特別支援学校周辺の一般事業所で職業訓練を受けることができるよう働きかけを行うなど、障害者の就労を支援する取組を行ってみませんか。

(再質問)

大人になってからわかる発達障害について、支援などが対応できる施設はありますか。

3. ライフスタイルの多様化や共働き世帯の増加から、雇用や就業を取り巻く環境が大きく変わっています。仕事と仕事以外の生活を両立できる環境にある会社は、若者にとって、とても魅力的です。企業におけるワーク・ライフ・バランスの実現に向けた職場の環境づくりについてお聞きします。

事業所内に託児所を設置する事業所に対する補助制度はありますか。

(再質問)

西尾市で事業所に対する補助制度を考えないか。

女性議会 一般質問通告書

氏名 杉浦 恵美子

テーマ	<p>(1) 中高年者が生きがいを持って生活するために</p> <p>(2) 高齢者や障害者を災害から守るには</p> <p>(3) 子どもの貧困について</p>
現状や課題 意見・提案事項	<p>9年間、民生委員を務めさせていただいた経験から質問したいと思います。民生委員時代、担当地区の一人暮らし高齢者世帯を訪問すると、皆さんとても喜んでくださいますが、反面とても寂しそうです。昔ばなしに花が咲き、小一時間ほど経過してしまうことも度々あり、地域に気軽に相談できたり、交流できるサロンのような憩いの場所を作ってあげたいと思いました。</p> <p>また、貧困状態にある子どもたちの深刻な事例や子ども食堂に関する情報が、テレビや新聞等で報道されています。7人に1人の子どもが貧困であるということを知り、市内にも、給食以外にまともな食事をしない子どもたちがいるのではないかと考えるようになりました。子どもの貧困は、家庭の問題であり外から見えにくいいため、子どもたちを守る地域のネットワークが必要だと思います。</p> <p>少子高齢化の進展や地域のつながりの希薄化、三世帯同居の減少、ひとり親世帯の増加など家族形態が変化する中で、高齢者の孤立化や子どもの貧困は、大きな社会問題です。地域と行政が連携を図り、子どもたちや高齢者を支援していくことが必要な時代にきていると思います</p> <p>そこで、質問します。</p>
質問	<p>1. 高齢者の一人暮らしは、災害が発生した際に大きな不安を抱いたり、また、閉じこもりがちな生活から、認知症の進行によって引き起こされるトラブル、孤独死などの問題が考えられます。一人暮らし高齢者が、地域で孤立することなく、安心して生活できるよう、地域住民が交流できるサロンのような場所（施設）で、町内会や校区が関りを持ち、運営されているような場所は市内にありますか。また、地域でそのような場所を開設する際には、行政は何か支援をしてくれますか。</p>

2. 災害に備え、民生委員は、校区内の高齢者、身障者などの名簿を行政と共有しています。年1回、名簿の加除等を行いますが、関係課間において情報が共有されていないように思われます。また、民生委員と校区役員が顔を合わす会議などもなく、いざというときに連携、協力を図ることができるかとても心配です。災害時要援護者支援において、市役所内における横断的な体制は整備されていますか。

3. 各地で、地域の子どもたちに食事を提供する「子ども食堂」がオープンしています。場所は、地域の公民館やお寺、空き店舗を活用するなど様々で、地域の高齢者などが料理を作り、子どもたちとのふれあいを通じて生きがいを感じたりしているようです。現在、市内には、子ども食堂がありますか。あれば、件数や携わっている方々はどんな方なのか教えてください。

女性議会 一般質問通告書

氏名 松崎 幸子

テーマ	防災を「自分事」にするために
現状や課題 意見・提案事項	<p>「天災は、忘れた頃にやってくる」…最近の災害発生頻度を見ると、もはや、この言葉は通用しなくなっていると感じます。平成7年の阪神淡路大震災、平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本大地震、そして今年に入ってから、西日本豪雨、大阪と北海道を襲った地震、大型台風の襲来など、次から次へと災害が発生しています。災害対策の必要性はわかっているけれども、できていないことは、災害を「自分事」として捉えていないこと。市民一人ひとりが、自ら行動するためのきっかけとなる提案をしたいと思います。</p> <p>東日本大震災の翌年、仙台市に近い宮城県亶理町（ワリチョウ）、名取市に行く機会がありました。特に、亶理町荒浜地区の現状には言葉を失い、ただ立ちつくすだけでした。津波でほとんどの家屋が流され、多くの方が犠牲となりました。数多くの住宅が流されたため、一年建っても、その地からは遠く仙台市のそびえたつビル群がはっきりと見え、辺り一面視界を遮るものは全くありませんでした。</p> <p>被災した方々の経験や先人の知恵から学び取る必要性を感じた私は、早速、西尾市について調べてみました。ハザードマップが地震・津波、洪水、土砂災害と災害種別毎に作成されていることを知りました。すべてのハザードマップを部屋いっぱい広げてみましたが、残念ながら深い理解を得ることはできませんでした。数年前から防災関連のセミナー等にも参加し、少しでも知識を増やそうと心掛けており、昨年度は、災害ボランティアコーディネーター研修を受講し認定証をいただきました。そのような中で、今年4月、西尾市においても「女性のための防災リーフレット」が作成されたことを知り、女性の視点からの防災対策が一步前進したと思いました。</p> <p>この地域では、今のところ大きな災害は発生していないので、防災に関して市民は、「対岸の火事」あるいは、最近の表現では、「正常性バイアス」と言われ、防災意識が薄れているように感じます。西尾市は、南海トラフ地震が発生すると、震度7、最大津波4.4メートル、死者1,800人（これは県内最多）という被害想定が発表されていることを忘れてはいけません。今一度、市民一丸となり、防災、減災を共通理解のもとで考え直す時期ではないでしょうか。</p> <p>そこで、質問します。</p>

質問

1. ハザードマップを一体化した、例えば、災害発生時の被害状況をよりリアルに再現するジオラマ（地形縮小の模型）やプロジェクションマッピングを活用した災害シュミレーション装置を作成し、被害予測情報の視覚化を図り、子どもからお年寄りまで、幅広い世代を対象とした防災啓発、防災教育を進めてはいかがでしょうか。

【再質問】

死者、行方不明者 5,000 人以上を出した伊勢湾台風。当時、私は5歳でした。半世紀以上経った今でも、あの時の恐ろしさは忘れません。先ほど答弁の中で、「映像」という言葉が数回出てきましたが、甚大な被害や津波の恐ろしさなどを映像で見ると視覚的に捉えることも大切だと思います。来年度から、防災アプリの導入も検討しているとのことで、時代はアナログからデジタルに移行していますが、発災後の迅速な安否確認方法である「黄色いタオル作戦」など、アナログ的な防災対策も私は必要だと思います。ジオラマの提案については、予算や設置場所の確保などの問題もあるかと思いますが、前向きに検討していただけると信じ、再質問させていただきます。

ジオラマについて調べていたところ、一般社団法人防災ジオラマ推進ネットワークという団体が存在することが分かりました。段ボールジオラマは、等高線に沿って切り抜かれたパーツをパズル感覚で積み重ねて、子供でも簡単に組み立てられるオーダーメイドのキットです。自分で考え、組み立てることで、楽しく身近に防災感覚を育むことができると思います。子供たちを対象に、このジオラマキットを活用したワークショップを開催してはいかがでしょうか。

2. 5年前、愛知県が南海トラフ地震の被害想定を発表した際その内容から衝撃を受け、市民の意識は、地域一体となった防災力の強化に向かっていたように思います。しかし、現在は、「自分が住んでいる地域に関係なければよし」という意識が個々の気持ちのどこかにあるように感じます。そのような気持ちの積み重ねが、地域防災力の低下につながります。今一度、市全体として防災力を高める取り組みが必要だと考えますが、何か新しい取り組みなど考えていましたら教えてください。

3. 平成 28 年 10 月に結成された機能別消防団女性分団は、消防団員の募集や防火 PR、救命講習の普及などを目的に活動していると認識しています。過去 2 年間の活動実績と今後計画している新たな活動があれば教えてください。

女性議会 一般質問通告書

氏名 牧 仁美

テーマ	子育て環境について
<p>現状や課題</p> <p>意見・提案事項</p>	<p>私は、子どもやママたちと関わる活動や仕事をしています。そして、私自身も吉良町で小学生以下の子どもを3人育てている母親です。本日は、親子をとりまく環境について、2点お話しさせていただきます。</p> <p>1点目は、保育園の入園についてです。現在、吉良町内には、小学校区に1つの保育園しかない地区がほとんどで、幼稚園については、ひとつもありません。それは、合併する前から変化のないことです。しかし、私的入園に関する条件は、厳しくなりました。</p> <p>入園の際、働くお母さんが優先されることは、もちろん理解できますが、保育園しかない地区において、下の子がいる中で、上の子を年少から預けるのに苦労しているという話も聞きます。実際、私自身も同じ経験をしました。旧西尾市内と3町側では、保育園などの配置に大きな差があり、同じ条件での入園は難しいのではないのでしょうか。他の政策もそうですが、地区で環境の違いがある以上は、旧西尾市のやり方に合わせるのではなく、その地区の実情に合った取り組みを検討していただきたいと思います。</p> <p>2点目は、公共施設の使い方についてです。現在、ふれあいセンターなどでは、団体登録をしていないと借りることができない施設が多く、また、大きな音を出す活動はNGなど利用に関しても制限がある印象です。そのため、子ども達（小、中、高校生）の自発的な活動なども実施しにくい状況となっています。子ども達は、施設を借りる際、金銭面や活動範囲の面から考え大人より制限があります。例えば、太鼓の練習をしたくても、今の利用条件では、ふれあいセンターなどの利用は難しく、練習会場を探すにも一苦労しています。例えば、子どもたちが太鼓を練習する日は、他の利用者の方々と話し合い、子どもたちの活動を優先させていただくなど、子どもたちも練習内容も工夫し、お互いが譲り合いながら利用できればとても素晴らしいと思います。大きな音が出ると、他の利用者や周辺住民の皆さんに迷惑がかかることを子どもたちは、しっかり理解しています。</p> <p>PFI事業を進めていかれる中で、利用者のニーズを的確に把握し、今後は、市民が望む公共施設等を提供していただければと思っています。子ども達は、保護者や地域の皆さんから、</p>

	<p>愛情や優しさを受け育っていくと思います。優しさを受けた子どもたちは、今度は、地域の皆さんや自分より小さい子供たちにその気持ちを返しながら、協調性や思いやりといった社会性を育てていくと思います。市全体で、「誰かのため」に譲り合い、支え合い、思いやりの輪を広げ、心豊かに暮らせるまち西尾市になっていく事を願います。</p> <p>そこで、質問します。</p>
<p>質問</p>	<p>1. 今後、市内の保育園や幼稚園がこども園に移行する計画、または、地区それぞれにおいての入園基準となり、働いていないママでも、小学校区の保育園への入園が選択肢のひとつになるような入園基準の見直しを行う予定はありますか。</p> <p>【再質問】 3町では、場合により私的児を受けているとの事ですが、過去の事例として、平均何園ほど私的児を受け入れていますか。また、私的児を受け入れられる園の基準や、年中児入園の場合、私的児として入園できる園が増えるのかも教えてください。</p> <p>2. P F I 事業が進められていますが、今後、計画が予定されている施設についてお聞きします。包括的な民間委託により、市民ニーズに対応した運用が期待されます。今後もっと子ども達やママが気楽に使用でき多様な市民活動が行いやすい施設運営は計画されていますか。</p> <p>また、太鼓や音楽活動など大きな音の出る使用用途でも借りられる施設が増えますか。</p>

女性議会 一般質問通告書

氏名 手島 とし子

テーマ	女性活躍促進の現状と今後の取り組みについて
現状や課題 意見・提案事項	<p>女性が活躍できる社会を作るためには、「働きやすい職場の環境づくり」と「家族の理解」、「子育て支援制度の充実」、「ワーク・ライフ・バランスの推進」などが重要であると思います。</p> <p>平成 28 年 4 月、女性活躍推進法が完全施行し、中小企業等では、女性の活躍促進に向けた具体的な取り組みが広がりつつあります。西尾市においても、平成 30 年 8 月現在、35 の事業所が、県が実施する「女性の活躍促進宣言」を行っています。しかし、宣言した各事業所が具体的にどのような取り組みを行っているのか、また、実際にどのような成果が上がっているのか、よくわからないのが実情です。</p> <p>私たちばらネットは、市民の皆さまに男女共同参画への理解を深めていただくため、年 2 回、行政と協働で男女共同参画情報誌を発行し、町内会への回覧を実施しています。掲載する内容のひとつとして、女性活躍の視点から、また、雇用対策の充実から、社員の意識改革や社内の業務改善に取り組んでいる市内の事業所を紹介していきたいと考えました。就職活動中の学生の中でも特に女子は、企業を選ぶ際に働き方を重視する人は少なくありません。この情報誌が、皆さまの働き方改革の一助になればと思っています。</p> <p>誰もが働きやすく、個性や能力を十分発揮できるような就業環境の整備に向けた取り組みについて質問します。</p>
質問	<p>1. 女性の活躍促進宣言を行った事業所が、具体的にどのような取り組みを行っているか、市は、該当する事業所と意見交換などを行い、その取り組み状況や成果を定期的に把握していますか。</p> <p>2. 県は、企業における女性の活躍促進に向けた取組を支援するために、アドバイスやコーディネーターを派遣しています。今後、市は、意識改革や業務改善に取り組もうとしている事業所に支援のための補助や援助に向けた仕組みづくりを行う考えは持っていますか。</p>

	<p>3. 企業等における女性の活躍を加速化させるためには、経営者や管理職等の立場にある方の意識改革が必要だと考えます。今年度、第2次西尾市男女共同参画プランの見直しを行っており、女性活躍推進法に基づく市町村推進計画としても位置付けると聞いております。</p> <p>商工会や商工会議所等と連携、協働し、経営者や管理職等の立場にある社員を対象とした意識啓発事業や研修に取り組むなど、今後、トップ層への具体的な施策を何か考えていますか。</p>
--	---